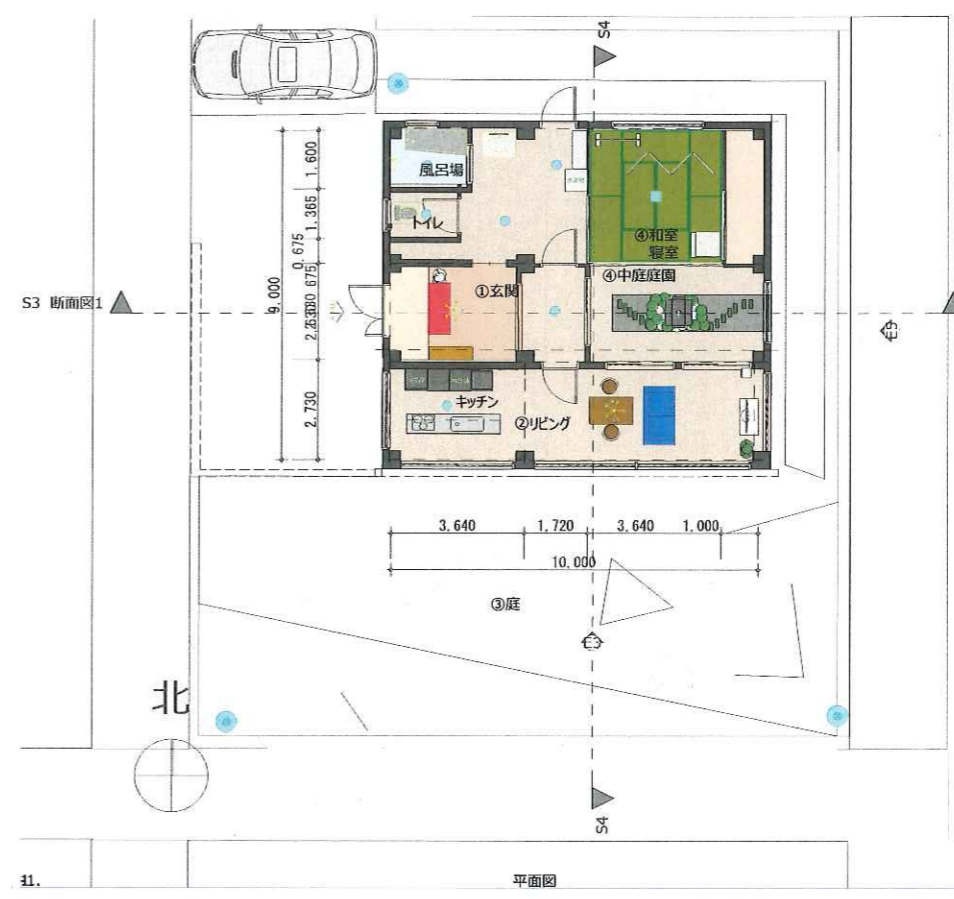


# 開和 X 洋閉 平屋住宅

—開放的な空間と閉鎖的な空間の共有と独立



**コンセプト**  
人に優しい平屋のデザインということでシニアカップルをターゲットとした。  
この建築のコンセプトではシニアカップルに優しいということで階段や段差の導入は全くせず、平床の住宅にした。また和の要素と洋の要素を取り入れた住宅であり、具体的に和の要素は畳を江戸間の畳部屋と天窓の中庭庭園を導入した。洋の部分では主に外観デザインやリビング、玄関であり、さらに開放的な部屋に洋の要素を導入した。また洋の要素と和の要素では具体的に部屋の高さに違いがあり、洋要素のリビングや玄関の部分では広く、開放的な要素を見せるべく天井高さを2.7mとし和の要素では天井高さを2.3mとし閉鎖的な雰囲気表現したのである。

**建築計画**  
○敷地—低層住宅街  
○用途地域—第一種低層住居専用地域  
○建築面積90㎡  
○敷地面積180㎡  
○容積率50%  
○建蔽率50%  
○周辺状況—周辺状況では静かな雰囲気のある住宅街で背の高い建物が無いので景観が広い



**図① 玄関**  
玄関では幅広くデザインした段差も極力差を無くしたのである。今後の生活のため例えば自宅が病気になる際救急車のいかにスムーズに移動できるか玄関先は広くデザインをし、またシャンデリアの光によって落ち着いた雰囲気を醸している。このような幅広い玄関などは外の光が強い場合玄関のドアを開けた際に玄関は暗いので光の差で目の前が見えなくなってしまう。そこで玄関内に観葉植物や玄関が通常の寸法だとケガに繋がらぬかと考え、玄関先を広く取ったのである。



**図② 夜のリビング空間**  
インテリアを重視したリビング空間である。シャンデリアなどを導入しどこか洋風なリビングであるが、夜になると、田舎町にきたような懐かしさを演出をした。キッチンもすぐ隣にある事から料理の持ち運びは容易であり、またテレビを見ることもすぐ隣にある事から移動の負担衣食住を軽減するためにコンパクトな用途のリビングとなっているのである。  
また外部と内部で光の演出に差異を設けることにより、昼間は相乗効果によって生み出された開放的なリビングであるが、夜になると光で一体化されたリビング空間が生み出されるのである。



**図③ 庭**  
近代的な庭モチーフとしてデザインをした庭である。特徴的なのが三角形を中心に緑と舗装と大理石を交互に組み合わせたデザインであり、デザイン自体にあまり高低差を生み出させないポイントがどこか開放的な広場な雰囲気を出している。また開放的な広場にすぐ前に全てガラス張りのリビングがある事から、この庭の開放性がリビングに精通し開放性の相乗効果を出している。また緑化にも力を入れており敷地を囲う壁に全て緑化しました。庭先も緑を取り入れた、さらに緑が多すぎると定期的なメンテナンスの手間が大きくなってしまったため大理石や舗装なども取り入れた理由の一つでもある。



**図④ 中庭庭園**  
この中庭庭園ではゆとりある空間となっている。また洋の要素よりも閉鎖的なところが和の要素を大きくしている。デザインイメージとしては庭園を住宅の中に取り入れ和室と連続した空間を演出した。また庭園をイメージしたデザインでは光を多からず少なからず取り入れるために正面は小さな窓を設置し上は天窓を取り入れ多からず少なからず光の取り入れを演出したのである。

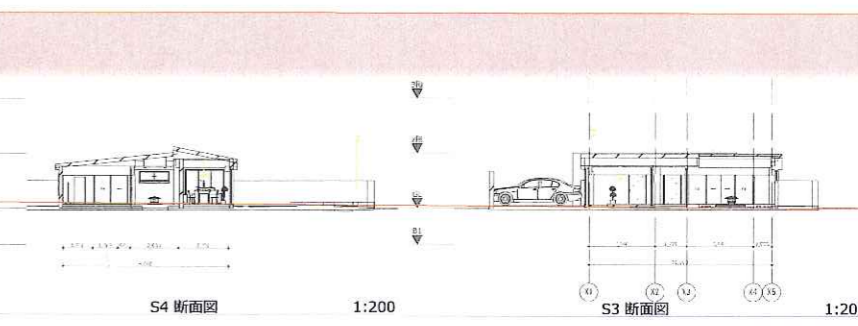
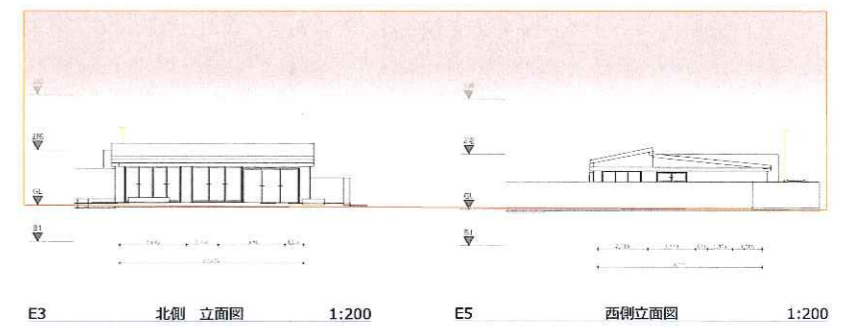


図 玄関



図 リビング



図 庭全体

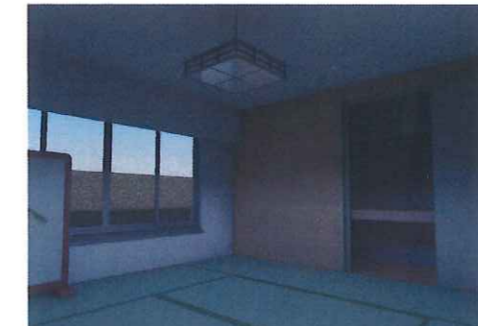


図 和室